

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第1回全国空手道選手権大会
(166 ページ～)



平成27年度全日本学生柔道優勝大会
(174 ページ～)



第59回全日本学生空手道選手権大会
並びに東西対抗戦 (178 ページ～)



第6回世界なぎなた選手権大会 (170 ページ～)



平成 27 年度全日本学生柔道優勝大会

筑波大学 歓喜の初優勝



男子決勝・代表戦＝筑波大・永瀬貴規（右）と
東海大・ウルファロン（左）が対決。
永瀬が辛勝し、筑波大に初優勝をもたらした

平成 27 年度全日本学生柔道優勝大会が 6 月 27・28 日に、日本武道館で開催され、全国から選抜された 124 チームが出場した。男子は、筑波大が代表戦の末、東海大を破り、嬉しい初優勝に輝いた。女子は、5 人制で山梨学院大が、3 人制で鹿屋体育大が優勝となった（詳細は 16 ～ 19 頁に掲載）。



一般男子（指定選手）組手決勝
香川（左）の中段蹴りが決まる

一般（指定選手）組手 香川幸允、染谷香予が初代王者に



一般女子（指定選手）組手決勝
上段突きを放つ染谷（左）

一般財団法人全日本空手道連盟松涛館

第1回全国空手道選手権大会

一般財団法人全日本空手道松涛館が主催する第1回全国空手道選手権大会は7月12日、日本武道館で開催された。

大会では、小学1年生から一般まで全39部門にわたる組手（団体・個人戦）と形（個人戦）の試合が行われ、熱戦が展開された。

■組手個人戦

▽一般男子（指定選手）組手

77名が参加。決勝は現在ナショナルチームの主将を務める香川幸允（ひでよし）と同じくナショナルチームの渡邊大輔（わたなべ）の対決。序盤は互いに慎重に機を窺（かが）い、一進一退の攻防が続く、残り40秒までは2対2の接戦。ここから激しい得点の奪い合いが始まる。渡邊が中段蹴り、上段突きを決めれば、香川も負けじと中段蹴り、上段突きで並ぶ。残り8秒で渡邊が上段突きでリードを奪う。

このまま試合終了かと思われた残り4秒、香川が渡邊の中段突きを捌（は）くやいなや中段蹴りを放つと、これが見事に決まり、土壇場で逆転に成功。第1回大会の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ香川幸允選手

「とにかく優勝できてうれしいです。渡邊選手は毎日一緒に練習をしているので、お互いに手の内を知り尽くしています。予想以上に相手の調子が良くて、途中で心が折れそうな場面もあったんですけど、なんとか集中力を切らさずにやれました。試合前に先生から、つまらない試合をするんじゃないでいいに技を出し合う、観客が感動するような試合をやれと言われていました。そういう試合ができて良かったです」

▽一般女子（指定選手）組手

28名が参加。決勝は昨年の全日本選手権と同じ顔合わせとなる染谷香子（せんや）対植草歩（うえくさ）の対決（選手権では染谷が判定で勝利）。先制したのは植草。中段突きの有効を奪い、続けて上段突きを決める。染谷は2点差になっても慌てずに2度の上段突きを返して同点に並ぶ。その後、植草が中段突きで再びリードするが、残り17秒から染谷が元世界女王の底力を発揮する。僅か5秒の間に上段突きを立続けに2本決めて一気に逆転。染谷が接戦をものにした。

◎優勝Ⅱ染谷香子選手

「第1回の大会で優勝できてうれしいです。後輩を含めて、選手がみんな強くなっているの、自分もしっかりやらないと、上にはいけない。誰と当たっても自分の組手を貫くことに集中しています。決勝で決めたのは全て上段突きでしたが、自然に技が出ました。試合では気持ち強い方が勝つと思って、とにかく強い気持ちを持つようにしました」

▽一般男子組手

45名が出場。決勝は金子晃太（信）



一般男子組手決勝＝金子（右）対出町



大学男子団体中堅戦＝京都産業大A（右）対帝京大

■組手団体戦

▽大学男子団体組手（5人制）

決勝は京都産業大学A対帝京大学。京産大先鋒釜口は帝京大先鋒内

▽一般女子組手

11名が出場。決勝では田辺真子（松涛連盟静岡）が高谷直子（松涛館拳心会かわでん）が対戦。試合は順調にポイントを重ねた金子が勝利。

州松涛館）と出町恭太郎（松涛館拳心会かわでん）が対戦。試合は順調にポイントを重ねた金子が勝利。

田に8―0で完封勝利。次鋒戦、京産大飯嶋も帝京大福田に5―3で勝利し、優勝に王手をかける。中堅戦、京産大藤澤は帝京大三浦に対し着実にポイントを積み重ねてゆく。終盤、三浦が中段蹴りを2回決めるも及ばず。7―5で勝利した藤澤がこの時点で京産大Aの優勝を決めた。

▽大学女子団体組手（3人制）

決勝は帝京大学Aと帝京大学Bによる帝京決戦。帝京大A先鋒森口は帝京大B石澤に上段突きを2回決めて2―0で先勝。続く中堅戦、帝京大A川村は帝京大B高橋に中段突きで先制されるも上段突き2本を返して逆転勝利し、帝京大Aが優勝した。

▽一般男子団体組手（3人制）

決勝は信州松涛館と株式会社かわでん空手道部の対戦となり、信州松涛館が先鋒、次鋒戦に勝利して優勝。

■形個人戦

▽一般男子形

56名が出場。決勝は昨年と今年の全日本学生選手権を制覇している帝

京大学の林田^{ちかし}至史と、同大学の本一^{もとかず}将の先輩後輩対決。本がゴジュウシホショウ、林田はガンカクを演武。判定の結果、3―2で本が学生王者の林田を降して優勝を手にした。

◎優勝Ⅱ本一将選手

「全日本学生選手権でも優勝している2つ上の林田先輩が相手だったので、まさか勝てるとは思わなかったです。決勝では、とにかく、思い切りやろうと思って形をうちました。それが勝因だと思います」

▽一般女子形

23名が出場。決勝は松涛連盟東京の岡本沙織と帝京大学の遠藤千夏の対戦。岡本がソーチン、遠藤がガンカクをそれぞれ披露。判定は4―1で岡本が頂点に立った。

◎優勝Ⅱ岡本沙織選手

「優勝できて良かったです。一安心です。決勝では、一番得意な形のソーチンを演武しようと決めていました。決勝の遠藤選手は先日の全日本学生選手権でも私が監督として指導した選手です。こうした形で同じコートに立って試合ができてすごく嬉しかったです」



一般女子形優勝＝岡本沙織（ソーチン）



一般男子形優勝＝本一将（ゴジュウシホショウ）



記念演武＝帝京大学空手道部 団体形・分解

【大会結果】（※優勝のみ）

■組手団体戦

▽大学団体男子Ⅱ京都産業大学A
大学団体女子Ⅱ帝京大学A
▽一般団体男子Ⅱ信州松涛館

■組手個人戦

▽一般男子指定選手Ⅱ香川幸允（松涛連盟東京）
▽一般女子指定選手Ⅱ染谷香予（松涛連盟東京）
▽一般男子Ⅱ金子晃太（信州松涛館）
▽一般女子Ⅱ田辺真子（松涛連盟静岡）
▽高校男子Ⅱ山田龍太郎（城南高空手部）
▽高校女子Ⅱ出町さくら（松涛連盟東北）
▽中学生男子Ⅱ伊藤颯輝（松涛連盟神奈川）
▽中学生女子Ⅱ中川麻鈴（秀修館本部秀修館）
▽小学6年男子Ⅱ竹内絃喜（信州松涛館）
▽小学6年女子Ⅱ三宅真祐子（一社道場会空心館）
▽小学5年男子Ⅱ嶋寺貴志（松涛連盟岐阜）
▽小学5年女子Ⅱ佐藤琴美（松涛連盟東京）
▽小学4年男子Ⅱ山口龍馬（松空会小松）
▽小学4年女子Ⅱ元田美羽（信州松涛館）
▽小学3年男子Ⅱ佐藤一（松涛連盟東京）
▽小学3年女子Ⅱ土方亜結美（松涛連盟東京）

▽小学2年男子Ⅱ大野瑛間（信州松涛館）
▽小学1・2年女子Ⅱ陶山幸来（一社道場会濤心会）
▽小学1年男子Ⅱ元田光翼（信州松涛館）

■形個人戦

▽一般男子Ⅱ本一将（松涛連盟東京）
▽一般女子Ⅱ岡本沙織（松涛連盟東京）
▽高校男子Ⅱ山中望未（一社道場会マリン）
▽高校女子Ⅱ木村華音（松涛連盟東京）
▽中学生男子Ⅱ森谷竜成（松空会濤学館）
▽中学生女子Ⅱ田野恵都（松涛連盟東京）
▽小学6年男子Ⅱ徳光龍（松空会濤学館）
▽小学6年女子Ⅱ森谷心々菜（松空会濤学館）
▽小学5年男子Ⅱ小笠原漸（松涛連盟愛知）
▽小学5年女子Ⅱ平田滢（川口空手アカデミ）
▽小学4年男子Ⅱ井土詩人（松空会濤学館）
▽小学4年女子Ⅱ井原舞陽（松涛連盟大阪）
▽小学3年男子Ⅱ杉山悠大（松涛連盟静岡）
▽小学3年女子Ⅱ丸山詩和（信州松涛館）
▽小学2年男子Ⅱ越智可成（秀修館本部秀修館）
▽小学1・2年女子Ⅱ山崎瑛恋（川口空手アカデミ）
▽小学1年男子Ⅱ加藤令英（松涛連盟東京）

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

日本武道館

金城 裕

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

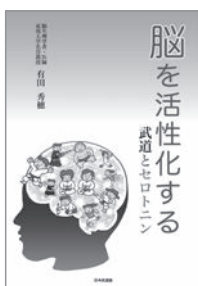
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著



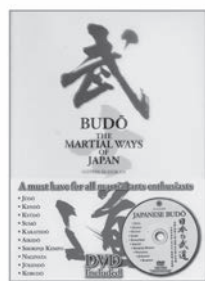
人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

第6回世界なぎなた選手権大会

—カナダ・モントリオール—

日本チーム 5度目の総合優勝



6月20日、カナダ・モントリオール市マギル・アスレチックセンターにおいて、第6回世界なぎなた選手権大会が世界各国から90名の選手が参加して開催された。

日本は演技競技、個人試合女子・男子、団体試合女子・男子の全競技で第1位となり、総合優勝を果たした。



澄んだ青空となった当日、各国選手の入場行進で大会は幕を開けた。開会式後、公開演技であるリズムなぎなたがベルギー・アメリカ・スウェーデンチームから披露された。

■演技競技

演技競技は男女混合も可能な形式で行われ、20チームにより競われた。

日本からは安喰愛・貫井みさきチームと井上美代・榊清史チームが出場。緊張ムードが高まる中、競技が開始された。両チームは順当に勝ち上がり、決勝戦で対戦した。

結果は、第1位安喰・貫井チーム、第2位井上・榊チームとなった。両



演技競技・決勝戦＝
上：安喰・貫井チーム 下：井上・榊チーム



スウェーデンチームのリズムなぎなた



個人試合女子・準決勝＝
貫井選手（左）対 安喰選手（右）



個人試合女子・決勝戦＝
林田選手（左）対 安喰選手（右）

チームはこの大会に向けて初めてペアを組んだため、強化合宿でしか稽古ができなかった。また、どの選手も試合出場に加えて演技競技に選ばれたことにより、メンタル面でかなり緊張を強いられた。そんな両チームが決勝で堂々と対戦している姿に大きな成長を感じた。

■個人試合女子

個人試合女子は、27名の選手により、トーナメント形式で行われた。安喰選手・貫井選手と日本チーム唯一の大学生、林田葉純選手が出場。準決勝、Aコートでは安喰選手と貫井選手が対戦、判定勝ちで安喰選手が決勝へ進出。Bコートでは林田

選手がカナダの Landeikie 選手にメダルを決め、勝ち上がった。決勝は安喰選手対林田選手の日本勢同士での対戦。前半、安喰選手が猛攻するも有効打突にならず、後半、林田選手は機会を捉え、攻めた。チーム内の先輩と後輩の対戦は、林田選手が判定勝ちし、日本チーム最年少が第1位となった。



個人戦男子・決勝戦＝
田中選手（左）対 Dermine 選手（右・ベルギー）



個人試合男子・2回戦＝
佐橋選手（左）対 Ohshima 選手（右・アメリカ）



個人試合男子・2回戦Ⅱ
佐橋選手（右・ベルギー）
対 加藤選手（左）

■個人試合男子

個人試合男子は、33名の選手が参加してのトーナメント戦。日本からは佐橋五月選手・田中康介選手・加藤大貴選手が出場した。

Aコートでは、佐橋選手は準々決勝でベルギーの Dermine 選手に判定で敗れ、入賞を逃した。準決勝、Dermine 選手は、スウェーデンの Ryngan 選手から二本勝ちを収め、勝ち上がった。

Bコートの準決勝、田中選手と加藤選手が対戦し、スネの一本勝ちで田中選手が加藤選手を破り、決勝へ駒を進めた。

決勝戦、田中選手は Dermine 選手と対戦。田中選手は終始冷静に試合を進め、コテを先取。一本勝ちで第1位となった。

加藤選手は3位決定戦で Ryngan 選手と対戦。スネを二本取って第3位に入賞した。

■団体試合（女子・男子）

女子団体試合は、8チームが出場し、3人制のトーナメント戦により、覇を競った。

個人戦で勢いづいた日本チーム

は、先峰・林田選手、中堅・井上選手、大将・貫井選手が三人三様の技を繰出した。初戦はベルギーに3-0で、準決勝はフランスに3-0で完勝した。決勝ではアメリカを3-0で降し、第1位に輝いた。

団体男子は、先鋒・佐橋選手が個人戦での雪辱を果たすべく積極的に攻め、日本チームの勝利に大きく貢献。中堅・榊選手は俊敏な動きを見せ、大将・田中選手は落ち着いた試合運びを行い、初戦はチェコを3-0で、準決勝ではカナダを3-0で破った。決勝はベルギーに3-0で勝ちを収め、第1位となった。

（文責：中段亜由美）



会場となった
マギル・アスレチックセンター



決勝戦を終えて 左から大野コーチ・中村監督・井上選手・林田選手・貫井選手



団体男子 田中選手・櫛選手・佐橋選手

◎選手団感想

▽中村ゆり子監督

「素晴らしい大会成績を収めることはもちろんのこと、選手8名の素晴らしい人生の1ページになるよう花開いた瞬間、監督冥利に尽きた大会を経験でき、応援してくださった皆様に感謝いたします」

▽榊清史選手(チームキャプテン)

「今回出場することで、技術面はもちろんですが、それと同じくらい、勝負と向き合う気持ち作りがどれだけ大切かを再確認しました。心と身体が両輪となるなぎなたをこれからも心がけたいと思います」

▽田中康介選手

「今大会は、色々な面で不安要素があり、特に男子の試合において海外のレベルが上がっている、今まで勝ってきているという気持ち捨て、チャレンジの気持ちで臨みました。苦しいこともありましたが、先生方の懇切丁寧な指導や仲間での助け

合うことから、チームが一丸となつて臨めた大会でした」

▽貫井みさき選手

「私にとっては、初めての世界大会でした。4年に1回のこの大会に、他国の選手は友との再会を楽しみつつ、互いに4年間培った力を発揮しているような印象を受けました。4年後、私も友との再会と互いの4年間の鍛錬を高いレベルで発揮できるように、1回1回の稽古をより大切にしたいと思いました」

▽中段亜由美マネージャー

「色々な意味でカナダまで遠い道のりでしたが、選手団一同、世界大会出場を通じて素晴らしい経験をさせていただきました。チーム一丸となつて大会を戦い抜いたこと、なぎなたを通じて海外の選手と交流できたことなど、全てが一生の宝物です。」

私たちがこのような幸せな時間を過ごし、大会成績で先輩方に続くことができたのは、この半年間、多くの方々にご協力とご支援をいただいたおかげです」

日本代表選手団

- ▽監督 中村ゆり子範士(福岡県)
- ▽コーチ 大野京子教士(大阪府)
- ▽マネージャー 中段亜由美教士(兵庫県)
- ▽トレーナー 河西紀秀
- ▽選手 田中康介五段(三重県)、榊清史四段(和歌山県)、貫井みさき四段(京都府)、安喰愛四段(島根県)、井上美代四段(島根県)、加藤大貴四段(愛知県)、佐橋五月四段(愛知県)、林田葉純三段(大阪体育大学)

【大会結果】

- ▽総合優勝Ⅱ日本
- ▽演技競技Ⅱ①安喰愛・貫井みさき、②井上美代・榊清史、③Axel Noorman & Faye Noorman(オランダ)
- ▽女子個人試合Ⅱ①林田葉純、②安喰愛、③貫井みさき
- ▽男子個人試合Ⅱ①田中康介、②Francois Dermine(ベルギー)、③加藤大貴
- ▽女子団体試合①日本、②アメリカ、③フランス
- ▽男子団体試合①日本、②ベルギー、③カナダ

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教
員養成所 ◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた
教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第
6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参
加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

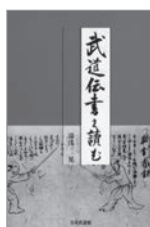


贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編
（四六判・上製・366頁）

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授
湯浅 晃 著
（四六判・上製・348頁）

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
（B5判・並製・236頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長
長濱 文子 著
（四六判・上製・356頁）

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。



男子優勝＝筑波大

平成 27 年度全日本学生柔道優勝大会

筑波大学が初優勝 東海大学の8連覇をはばむ

平成27年度全日本学生柔道優勝大会（男子64回・女子24回、主催Ⅱ全日本学生柔道連盟、毎日新聞社）が6月27・28日に、日本武道館で開催され、全国9地区から選抜されたチームが出場し、覇を競った。

男子は決勝で筑波が、東海に勝利。東海の8連覇をはばみ、初優勝を果たした。女子では、5人制で山梨学院が帝京を退け、2年連続6回目の優勝。3人制では、鹿屋体育が芦屋に勝利し、2年連続、3回目の優勝となった。

試合は、国際柔道連盟試合審判規定を準用し、判定基準は「有効」以上、点取り方式・トーナメント戦により争われた。

■男子（62校出場）

筑波は平成24・25年にベスト8、昨年は3位になっており、ここ数年力をつけてきている。1回戦は専修を6―0で降し、続く2回戦は皇學館を7―0、3回戦は鹿屋体育を5―0、準々決勝は帝京科学を7―0の全勝で破り、準決勝に駒を進めた。準決勝では、昨年準優勝の日本と

対戦。先鋒戦では、技有を日本・向に取られ、その後、大将戦まで引分が続く、スコア0―1で進んだ。大将戦では、苦戦を強いられたが、筑波・黒岩が見事な大外刈で一本とし、35年ぶりの決勝進出を果たした。

8連覇を狙う東海は、初戦（2回戦）で福岡に7―0、3回戦で、日本体育に4―0で勝利、準々決勝では山梨学院を4―1で破った。

準決勝では、強豪の国士舘と対戦。先鋒戦では東海・香川が大内刈を有効とし、東海が弾みをつけ、続く次鋒、五将、中堅戦と立続けに一本をとった。国士舘を5―0で降し、貫禄の決勝進出となった。

▽決勝

筑波大学 ②―2 東海大学

先鋒 永瀬貴規○小外刈 阪本健介
次鋒 橋高海人○内股透 香川大吾
五将 尾原琢仁 支釣込足○倉橋 功
中堅 黒岩貴信 引分 ウルフアロン
三将 長倉友樹 袈裟固○長澤憲大
副将 小林悠輔 引分 ベイカー素秋
大将 神谷 快 引分 影浦 心
代表 永瀬貴規②指導2 ウルフアロン
熱気に包まれた場内、試合は初戦



男子決勝・次鋒戦＝筑波・橋高（右）が東海・香川（左）から内股透で一本勝



男子決勝・代表戦＝筑波・永瀬（右）が東海・ウルフ（左）を攻める



男子決勝・先鋒戦＝筑波・永瀬（左）が東海・阪本（右）から小外刈で技有をとる



男子決勝・三将戦＝東海・長澤（上）が筑波・長倉（下）に袈裟固を決める

から好試合が展開された。先陣を切った筑波・永瀬は、東海・阪本の一瞬の後退を見逃さず、巧みな小外刈をかける。それが技有となり、筑波に勢いをもたらした。続く次鋒戦では、筑波・橋高が先鋒戦の勢いそのままに、見事な内股透を決め、筑波の初優勝に向けて弾みをつけた。五将戦、東海・倉橋の支釣込足が技有となり、中堅戦は引分、三将戦では、終了間際に東海・主将長澤が筑波・長倉を袈裟固でしつかり固め、執念で一本を勝ちとった。これで勝者数が同数となり、勝負の行方は副将戦、大將戦に委ねられた。

その副将戦、大將戦は両戦とも引分となり、代表者1名を自由選出しでの代表戦（判定基準は個人戦に準ずる）となった。筑波からは主将の永瀬が、東海からは2年生エースのウルフが選出され、両雄が、筑波は初優勝、東海は8連覇を記され、勝負に挑んだ。

代表戦となったどよめきから一変、場内では激しい応援合戦が繰り広げられる中、最終戦が開始された。組手が巧みな永瀬に対して、ウルフは有利な組手が出来ず指導1と

なる。試合再開後も、永瀬が優位に進め、ウルフに対し指導2が出る。動揺を隠せないウルフと攻め続ける永瀬。試合はそのまま時間切れとなり、筑波は悲願の初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ

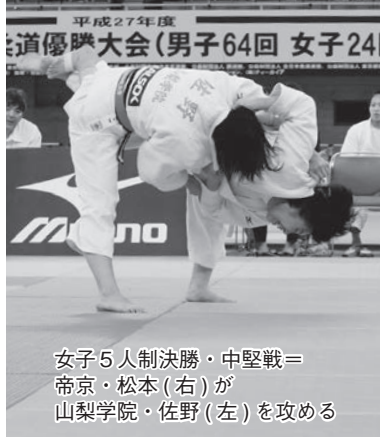
筑波大学主将・永瀬貴規選手

「本当に嬉しいです。筑波は未だ優勝したことがなく、今年こそはという思いがありました。チームの総合力では、東海大が上だったと思います。私が先鋒となったのは、筑波大に勢いを持ってきたことの監督の意図があつたので、流れを作れてよかったです。代表戦はなんとしても勝たなければと思い、挑みました。今日ほど、チーム一丸となったことはありません。改めていいチームだと思いました」

◎優勝Ⅲ

筑波大学・増地克之監督

「代表戦の直前、永瀬に対し、相手のウルフ選手は2階級も上の選手なので、そう簡単には一本をとれない、きつちりとした試合をこなさいと指示を出しました。優勝は筑波OBの悲願でしたので、決勝戦の直前には選手たちに、お前たちで新しい



女子5人制決勝・中堅戦＝
帝京・松本(右)が
山梨学院・佐野(左)を攻める



女子5人制優勝＝山梨学院大



女子5人制決勝・次鋒戦＝
山梨学院・出口(下)が帝京・
志々目(上)から巴投で有効を奪う



女子5人制決勝・代表戦＝
山梨学院・井坂(右)が
帝京・月波(左)を攻める

歴史を作れよと自分の思いを伝えました。本当にいい選手に恵まれて幸いです」

■女子5人制(34校出場)

2連覇を狙う山梨学院は、準決勝で龍谷との対戦となった。先鋒、次鋒戦で一本をとり、勢いに乗る山梨学院。中堅戦では一本とられるものの、副将戦、大将戦と続けざまに一本をとり、決勝進出を決めた。

3年連続で3位となっている帝京、準決勝の相手は筑波であった。先鋒戦は引分、次鋒戦は帝京が一本をとった。中堅戦は引分、副将戦で技有を筑波にとられ、大将戦は引分となった。1―1の勝者数同数、内容差で、帝京が決勝進出を果たした。

▽決勝

山梨学院大 2―1 帝京大
先鋒 月野珠里 引分 安田梨乃
次鋒 出口クリスタ 巴投 志々目愛
中堅 佐野賀世子 背負投 松本千奈津
副将 新添左季 引分 佐俣優依
大将 井坂希望 引分 月波光貴穂
代表 井坂希望 ○指導 1 月波光貴穂
先鋒戦、山梨学院の月野、帝京の

安田ともに積極的に攻めるものの引分け、次鋒戦において、帝京・志々目が前傾姿勢となった瞬間を山梨学院・出口がうまく合わせ、巴投をしかけ、有効をとった。中堅戦では、帝京・松本と山梨学院・佐野の一進一退の攻防が続くが、開始4分、勢い良くしかけた松本の背負投が有効となり、帝京は勝者数を同点とした。

続く副将戦、大将戦は白熱した試合となったが、引分となった。大将戦が終了しても、勝者数、内容全て同一となったため、引分けた3試合の中から1組を抽選し、代表戦(ゴールデンスコア方式)が行われることとなった。選ばれたのは、直前まで熱戦を繰り広げた両大学の大将2人。井坂、月波ともに気合いを入れ直し、代表戦に臨んだ。

まさに死力を尽くす展開となった代表戦、井坂は息が上がりながらも、技を仕掛ける。最後は月波が指導となり、山梨学院が熱戦を制し、2年連続、歴代最多を更新し、6回目の優勝を勝ち取った。

◎優勝

山梨学院大学・井坂希望選手
「代表戦では絶対勝ってやるという



女子3人制決勝・大将戦＝
鹿屋体育・江口(上)が
芦屋・杉本(下)から大内刈を決める



女子3人制決勝・中堅戦＝
鹿屋体育・堀(左)対 芦屋・櫻井(右)



女子3人制優勝＝鹿屋体育大



女子3人制決勝・先鋒戦＝
鹿屋体育・飯野(左)が
芦屋・太西(右)を攻める

気持ちで試合に挑みました。2回戦などあまりよくない試合でしたので、最後だけは皆のために負けたくないという思いが強かったです。今までの大学柔道でゴールデンスコア方式の試合では負けたことがありません。だから自信はありましたが、プレッシャーは凄かったです。でもそれを体験できてよかったです」

◎優勝＝
山梨学院大学・山部伸敏監督
「選手が丸となって目標を達成してくれました。ありがとう、そしておめでとーと言いたいです」

▼決勝
鹿屋体育大 2-0 芦屋大
先鋒 飯野鈴々〇合 技 大西音々
中堅 堀 歩美 引 分 櫻井悠香
大将 江口高千穂〇大内刈 杉本有里沙
先鋒戦では、鹿屋体育・飯野が払腰からの後袈裟固で合技一本とし、優勝に王手をかけた。中堅戦は引分となり、続く大将戦、鹿屋体育・江口がキレのある大内刈で一本とし、鹿屋体育は2年連続、3回目の優勝を決めた。

「大会結果」

男子

- ▽優勝＝筑波大
- ▽準優勝＝東海大
- ▽第3位＝国士館大、日本大
- ▽優秀選手＝永瀬貴規(筑波大)、黒岩貴信(筑波大)、長澤憲大(東海大)、倉橋功(東海大)、佐藤正大(国士館大)、向翔一郎(日本大)、飯田健伍(山梨学院大)、白川剛章(天理大)、小川雄勢(明治大)、山田知輝(帝京科学大)

女子5人制

- ▽優勝＝山梨学院大
- ▽準優勝＝帝京大
- ▽第3位＝龍谷大、筑波大
- ▽優秀選手＝出口クリスタ(山梨学院大)、安田梨乃(帝京大)、米澤夏帆(龍谷大)、古屋梓(筑波大)

女子3人制

- ▽優勝＝鹿屋体育大
- ▽準優勝＝芦屋大
- ▽第3位＝創価大、福岡教育大
- ▽優秀選手＝江口高千穂(鹿屋体育大)、櫻井悠香(芦屋大)、岩佐遥(創価大)、田坂牙(福岡教育大)



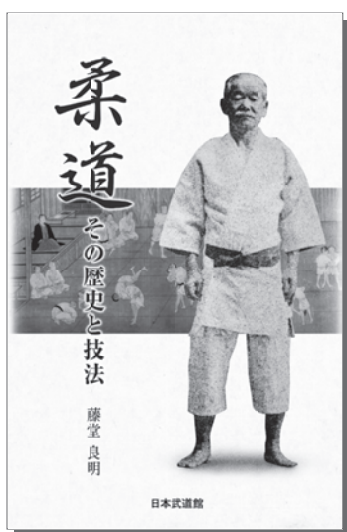
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選手権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

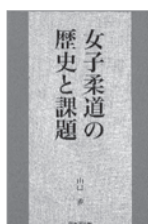


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）

第59回全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦

組手

西村拳、染谷真有美
ともに初優勝

形

林田至史2連覇、川崎衣美子初優勝



男子組手決勝戦＝西村（右・近畿大）が比嘉（日本大）を攻める

第59回全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦は、7月5日に日本武道館で開催され、男女組手、形で学生空手道日本一が競われた。

組手競技は、男子が前回大会優秀選手賞の西村拳（近畿大2年）、女子は前回第3位の染谷真有美（帝京大4年）が優勝を遂げた。

形競技は、男子が昨年に引き続き林田至史（帝京大4年）、女子は前回3位の川崎衣美子（国士舘大4年）が頂点に立った。

また、選拔選手による東西対抗戦も行われ、男子は西軍、女子は東軍が勝利した。

組手競技

男女ともにトーナメント方式で争われた。男子は5回戦まで2分間6ポイント先取、準々決勝からは、3

分間8ポイント先取、女子は全試合2分間6ポイント先取で競われた。

◇男子（129名出場）

ベスト4には、西村拳（近畿大）、比嘉弘輝（日本大）、工藤開（近畿大）、葭矢雄太（近畿大）が勝ち上がった。

準決勝、西村対工藤は、西村が6―1の大差で工藤を退けた。一方の比嘉対葭矢は、3―3で引分け。結果は判定により、比嘉に3本の旗が上がり僅差で勝利した。

決勝は、西村と比嘉の対決。

先制したのは、西村。ワン・ツーで攻め、上段突きを2回決める。さらに、蹴り技で相手がよろけたところをすかさず、中段突き。そのまま勢いは衰えず、遠間から飛び込んで中段突きを決めた。

一方、比嘉も負けじとワン・ツーからの上段突きで攻め、2連続でポイントを決めた。しかし、これにひるまない西村が、比嘉の出ばなに逆上段突きを合わせてリードを広げた。そのまま時間となり、西村が5―2で勝利。嬉しい初優勝を果たした。

◎男子組手競技優勝Ⅱ

西村拳選手（近畿大）



「一戦一戦大事にという気持ちで戦っていたら、いつの間にか日本一になれたという感じです。表彰されて今フツフツと優勝を実感しています。序盤は、調子の悪い部分があったんですけど、準決勝、決勝と上がるにつれだんだん修正できたので良かったと思います。リーチの長さを活かして、投げ技、蹴り技、突き技、全部うまく使おうと頑張りました。学生チャンピオンになった以上、どの大会でも負けないうように日々精進していきたいと思っています」

勝利した。

決勝は、染谷と2学年後輩の鈴木による同門対決となった。

開始早々、染谷がワン・ツーから上段突きを決める。続けて、間合を詰めて、飛び込んで上段突き。さらに、中段逆突きを決めた。対する鈴木も反撃の機会をうかがい蹴り技を繰り出し、サイドに追いつめたが攻め入る隙がない。ここで、さらに染谷のワン・ツーからの上段突きが決まる。そのまま時間となり勝負あり。4―0で染谷は初優勝を遂げた。

染谷の姉（香子）は、2年前にこ

◇女子（80名出場）

ベスト4には、染谷真有美（帝京大）、鈴木真弥（帝京大）、多々野彩香（日本大）、永島亜純（近畿大）が顔を並べた。

準決勝、染谷対多々野は、染谷が2―1の僅差で多々野を退けた。一方の鈴木対永島は、2―0で鈴木が



女子組手決勝戦は染谷（左）対鈴木（右）の同門対決

の大会の組手競技を制しており、また、4年前は兄（隆嘉）も優勝を経験している。今回の優勝で三兄妹優勝という快挙を成し遂げた。

◎女子組手競技優勝Ⅱ

染谷真有美選手（帝京大）



「決勝戦に
来る前も、
決勝戦も同
門対決が
続きました。

勝った後輩、負けてしまった同期の分まで自分が勝とうと、一戦一戦、決勝戦のつもりで、優勝というよりは目の前の試合に勝つということだけを意識して戦いました。今日のような組手をして学生で優勝できたのに、他の試合でコロッと負けてしまったのは価値が下がると思うので、今日の課題を克服して、技を磨いて、常に学生チャンピオンらしい試合ができるように練習していきます」

■東西対抗戦

東西対抗戦は、男女とも各10名、1人1試合の対戦方式で、2分間6

ポイント先取で競われた。時間内に勝負が決しない場合は、引分けとなる。

◇男子

西軍が5―1で迎えた7鋒戦。勝敗の決まる試合で、西軍・白水孝俊（九州産業大）が開始早々、上段突きを決める。対する東軍・金澤曜平（北海道大）も蹴り技で応戦。しかし、白水がここでさらに上段突きを重ねる。後がなくなった金澤が蹴り技でゆさぶりをかけるものの、さらなる白水の上段突きに沈んだ。



東西対抗戦・大将戦（男子）

男子形優勝 林田至史（帝京大）・ガンカク



女子形優勝 川崎衣美子（国士館大）
チャタンヤラク・シヤンク



副将・大将戦ともに東軍が勝利したが、結果、西軍が6―3で制した。

◇女子

6鋒戦まで5―1とリードされた西軍は、7、8鋒戦とともに一本勝ちで巻き返しを図る。勝負のかかった副将戦。両者健闘するも、決めきれずに引分け。西軍の敗退が決まった。大将戦は、西軍が一本勝ちしたが、結果は東軍が5―4で勝利。

■形競技

男女共に予選は採点形式で行われ、上位8名が決勝に進出した。決勝はトーナメント方式、審判員5名の旗判定により勝敗を決した。

◇男子（34名出場）

決勝トーナメントを突破したのは、林田至史（帝京大、久保弘樹（京都産業大）、栗原秀元（駒澤大）、西原啓太（帝京大）。それぞれ、ソーチン、スーパーリンペイ、ゴジューシホショウ、ウンスを演武した。

準決勝、林田と栗原の対戦は、林田がウンス、栗原がガンカクを演武。結果は、林田が4―1で勝利。

久保対西原は、久保がセーサン、西原がソーチンを選択。3―2の僅差で久保が勝利した。

決勝は、林田と久保の対戦。林田は、松濤館流のガンカク、久保は糸東流のアーナンを演武した。

結果は、高い跳躍からの体捌きや、力強い突きを見せた林田にすべの旗が揃い、2連覇を達成。帝京

大としては4連覇を果たした。

◇女子（31名出場）

決勝トーナメント初戦の勝者は、川崎衣美子（国士館大、遠藤千夏（帝京大）、田中美佐稀（山梨学院大）、古川かれん（明治大）。それぞれ、トマリバツサイ、ウンス、残る2人はスーパーリンペイを演武した。

準決勝、川崎と田中の対戦は、川崎がスーパーリンペイ、田中がアーナンを演武。結果は5―0で川崎が

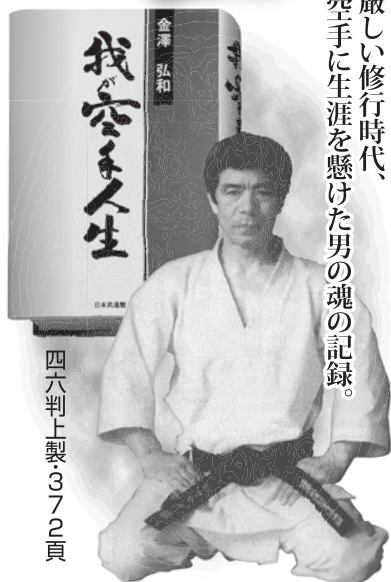
日本武道館 発行

国際松濤館空手道連盟宗家

金澤 弘和 著

我が空手人生

生いたちから父母の教え、「からて」との出合い、拓殖大学空手部に始まる厳しい修行時代、全日本制覇、海外への普及、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、空手に生涯を懸けた男の魂の記録。



四六判上製・372頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp

◎男子形競技優勝Ⅱ
林田至史選手（帝京大）
「学生最後の年に優勝できて嬉しかったです。昨年は3年生で優勝した

完勝した。
遠藤対古川は、遠藤がゴジュウシホシヨウ、古川がチャタンヤラクーシヤンクーを選択。堂々とした演武を見た遠藤が4―1で勝利した。
決勝は、川崎と遠藤の対戦。川崎は糸東流のチャタンヤラクーシヤンクー、遠藤は松濤館流のガンカクを演武した。判定は体軸をしつかりと保ち、安定感のある演武を見た川崎が4―1で勝利。初優勝を決めた。

◎女子形競技優勝Ⅱ
川崎衣美子選手（国士館大）
「会場に応援に来てくれた高校の後輩だったり、先生方だったり、同期の応援に背中を押された一日でも、のすごく楽しい試合ができました。

ので、4年生で負けて落ちたと思われのが一番嫌でした。大変だったことは、優勝した去年の自分よりもさらに練習して、さらにレベルアップするために自分を追い込んだことです。学生生活残り半分は団体戦があるので、帝京の連覇を止めずに、帝京としての誇りを持って形を頑張っていきたいと思います」

【大会結果】

■組手競技

▽男子Ⅱ①西村拳（近畿大）②比嘉弘輝（日本大）③工藤開（近畿大）、
葭矢雄太（近畿大）

▽女子Ⅱ①染谷真有美（帝京大）②

鈴木真弥（帝京大）③多田野彩香（日本大）、永島亜純（近畿大）

■形競技

▽男子Ⅱ①林田至史（帝京大）②久保弘樹（京都産業大）③栗原秀元

（駒澤大、西原啓太（帝京大）
▽女子Ⅱ①川崎衣美子（国士館大）
②遠藤千夏（帝京大）③田中美佐稀（山梨学院大）、古川かれん（明治大）

■東西対抗戦

▽男子Ⅱ西軍6―3東軍
（通算成績 東軍29勝 西軍27勝2分）
▽女子Ⅱ東軍5―4西軍
（通算成績 東軍16勝 西軍10勝）

心技体人を育てる総合誌
月刊 武道



好評発売中

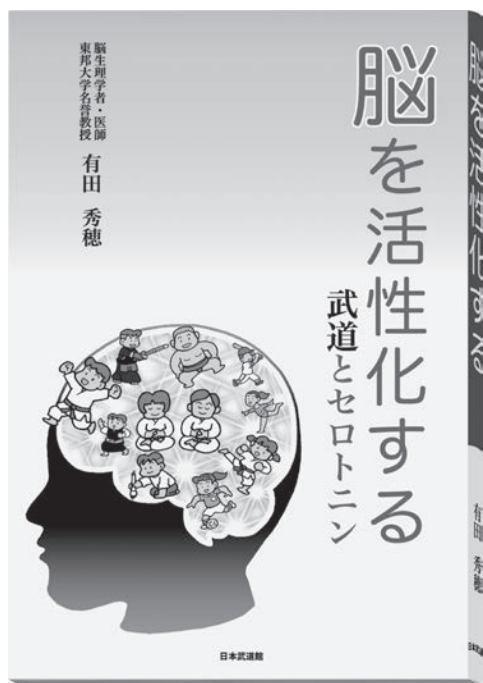
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには?

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

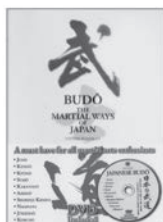
日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）

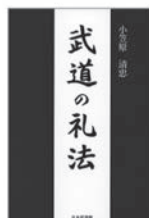


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



＜増補版＞ 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

（四六判・上製・248頁）

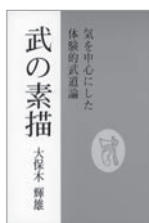


武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）